

西脇市保育士等キャリアアップ研修（乳児保育分野）

受講者感想 （2021. 5. 15） （一部抜粋）

- | |
|---|
| <p>○乳児期の現状について知ることができ、参考になりました。乳児期から姿勢を保つための運動を取り入れた保育をしていくことが大切だと思いました。手先の器用さについては、3本指が使えるようにするためにどうしたらいいのかを知ることができたので保育に取り入れたいと思いました。</p> |
| <p>○現場の子どもの様子を思い浮かべながら話を聞き、「なるほど」と納得できました。子どもの顔の怪我についても、手をついているのになぜ怪我をしてしまうのかと思っていましたが、親指を広げられないという指先の発達に関係があったと知り、保護者への説明、支援にもつなげることができます。</p> |
| <p>○園で手作りおもちゃをよく取り入れています。親・人・中指をよく使う遊びが多いように思います。子ども達の「遊び」を考えた時に意識を変えなければと思い、薬指・小指（尺側）が使えるような遊びを考えていきたいです。幸い西脇市は自然に恵まれていますので活用していきたいです。</p> |
| <p>○保育所保育指針の改訂された部分にとっても大事なことが加わっていると教えていただいたので、読み直したいと思いました。しつけが先行すると器用さが失われてしまうということを知り、子どもの発達段階や基本的な器用さが育った上で伝えていくこと、利き手だけを使うのではなく両手を使って何かをすることが大切だと知りました。</p> |
| <p>○今年度0・1歳児クラスの担任です。大和先生のお話しの中で、特に子どもの姿勢についてハイハイの大切さに改めて気付き、生活や遊びの中で、ぶら下がる、引っ張る、登る、投げる、走るなどの様々な動作の経験をたくさんすることの大事さを再認識できました。私の園では、リズム体操を取り入れており、楽しみながら様々な動きをすることができるため、引き続き継続していきたいと感じました。</p> |
| <p>○子どもの成長にとって睡眠はとても大切だということもよく分かりました。家庭での生活習慣がうまくいってないところは、園での保育で補って、乳児期を健康に過ごせるように援助していきたいと思いました。</p> |
| <p>○手先の器用・不器用は、生まれつきのものでなく乳幼児期に手指をどれくらい使ったのか、経験や環境がとても大切だということを学びました。どうしても「正しい型」をつけようとしがちですが、個々の発達を見ながら遊びの中で「器用さ」を育ていけるようにかかわっていく大切さに気付かされました。</p> |
| <p>○ハサミの使い方不器用な子は肩を使っていると聞き、「なるほど!」と思いました。子どもの成長に応じ、肩→肘→手首の発達にかかわるような環境を作っていきたいと思いました。</p> |
| <p>○自園の0・1歳児クラスの保育室は、どの動作も十分にできる環境でないと思いました。今日、様々な園の工夫された環境の写真をを見せていただき、真似したいもの、参考になることがたくさんあったので、どんどん取り入れていきたいです。</p> |
| <p>○姿勢を正すことが大切なことは認識していましたが、どう発達していくのかを学んだのは初めてでした。特に驚いたのは、手首の発達までに肘をつくことが必要であるということです。「正しい型」と「器用さ」を身に付けさせていくため発達を理解していく必要があると感じました。安全面にばかり目がいき、子どもの発達や活動意欲をうばってしまわないように、正しい知識を身に付けながら保育内容を考えていきたいです。</p> |

○不器用と感じる子が親指の発達が未熟と言われ、納得しました。指導して直すではなく、体の発達や筋力の発達、薬指、小指の発達、親指の発達を遊びの中で促していけるような保育という意識をもてる良い機会となりました。

○今は、5歳児を担当しており、子どもたちの姿勢が気になっているところでした。姿勢のためには、乳児の頃から肩回りや太ももを大きく動かすことが大切であることを学びました。今からの時期でも、楽しく遊びの中でいろいろな部分を動かせる保育や、橈側や尺側の神経を分離させる活動も取り入れようと思いました。

○「姿勢」の話、印象的でした。鉛筆の持ち方1つにしても、姿勢につながると初めて知りました。逆に、ぶら下がる、引っ張る、投げる、走る、跳ぶという運動をすることで姿勢につながることも初めて知りました。こういった運動を発達に応じて、遊びや活動に取り入れていけたらいいなと思います。生活の中でも、片付けや整理整頓、自分で靴や靴下を履く、ボタンをかける、蛇口をひねることだけでも手先や指先の器用さに繋がり、それが姿勢につながると思うと一つひとつの行動が大切だと思いました。

○発達には、その時期にふさわしい遊びがあり、一つひとつ丁寧にクリアしていく必要があると学びました。正しい型をつけることばかりに目を向けずに、乳児の発達過程を勉強しておくことで、その時期に必要な体の使い方があり、子どもの成長に良い影響を与えていくことができると分かりました。乳児の保育所保育指針の内容をもう一度確認してみようと思いました。

○現在、2才児を担当しているので今日はとても勉強になりました。乳児期のハイハイに始まり、遊びを通してぶら下がる、引っ張る、跳ぶなどの経験を積む事が良い姿勢へとつながる事や、生活経験の中で、指先や上肢をたくさん使う事が器用さとつながりお箸や鉛筆、ハサミを正しく使う事ができるようになる事を知り、乳幼児期の生活や遊びがとても大切だと言う事がよく分かりました。遊びの中に自然物を多く取り入れ、握る、つまむ、腕を外側に回す、腕を上げるなどの動作ができる環境をクラスで話し合い、遊びの中に多く取り入れていきたいと思います。

○子どもたちの睡眠や姿勢、指先の育ちなど、とても興味深いお話でした。とても具体的で分かりやすかったです。乳児期からの遊びの中で、ぶら下がったり、引っ張ったりすることを思いきり楽しめるような環境作りを考えていきたいと思いました。子ども達の身体的な様子をよく見ながらかわっていききたいです。

○乳児保育は感触遊びとか音の出る遊びが多く、大和先生から教えていただいた、引っ張る、登る、投げるなど意識していませんでした。明日の保育から子ども達の活動の中で、この遊びをしている時はここが育っているのだなと分かったので、保育が楽しくなりそうです。指先を使う手作りのおもちゃはありますが、肘を使ったり、小指や薬指を使ったりするものはあまりないので今後の課題として用意していきたいです。

○乳児保育では、少人数の時はクラス全体で子どもとかかわってもいいが、一人ひとりとしっかりかわっていくためには、育児担当制が適切だと思いました。今後の保育に活かしていけたらと思います。

○クラスで遅寝の子がいるので、昼・夕方と体温を計ってみようと思いました。朝も機嫌が悪いことが多いので、一緒に遊んで体温を上げる方法を試してみようと感じました。また、私自身姿勢が悪いので、子どもと一緒にたくさん体を動かして遊ぶ活動を多く取り入れようと思いました。手指の器用さのためにも粗大運動や自然遊びが大事だということやしつけ箸のデメリットを知り、今後の保育や育児に生かしていきたいです。

○バンボで便秘になると知り、びっくりしました。正座も時々する機会があり、色々と反省、見直す機会となりました。実際の現場の動画や写真を見せていただいて、とても分かりやすい研修でした。来週からの保育に活かしていきたいと思います。

○初めて参加させていただき、こういった研修もほぼ初めてだったので、楽しみにしていました。私自身経験年数もまだ浅いので、いろんな分野での学びをこれから得ていきたいと思います。今回の研修では、園生活の中だけでなく何気ない普段の動作等からの子ども達の発達に関わる重大要素がたくさんあると感じました。

○子どもの姿勢をよくしていくことに、乳幼児期からの遊びが関係していることを知りました。何気なく今まで遊んでいた手遊びやリトミック遊びも、音感や体の発達だけでなく姿勢の発達まで影響することを知り、びっくりしました。これからは、どういう動きがどんな発達を促すのかも考えて遊びを取り入れていきたいと思います。ドライバーライセンスを取り入れている園があると聞いて、子ども達も楽しそうでいいなと思いました。それぞれの園の環境に応じて色々な工夫をして、遊びを考えたり、道具を作ったりしているので、参考にしていきたいと思います。

○子どもの朝の機嫌は就寝時間と体温とが関わっていて、とても興味深く感じました。朝に白湯を飲ませて、体温を上げさせる方法もあることを知りました。子ども達が全力で全身を使って遊ぶ遊具の工夫や、環境の工夫を考えて実践していきたいと思いました。遊びの工夫をされている画像を見て、とても興味深く感じました。（養護教諭）

○今回、乳児保育という分野の講義をしていただきましたが、初めて勉強する分野でしたので、知らない事ばかりで、とても勉強になりました。乳児期は、体の土台を作る時期で、生活や環境作りがとても大切なのだと学びました。私は調理業務がメインなので、子ども達と、深くかかわる機会は少ないですが、教えていただいたことを頭におきながら、活かしていけたらなと思います。（栄養士）

○子どもの姿勢を良くするには、肩周りや太ももの筋力を日々の保育の中で鍛えることが大切だと学びました。手指の発達には、自然の中で遊ぶことが良く、食育で皮むきも良いので、発達につながる食育ができるよう考えていきたいと思います。（栄養士）

○乳児期の発達が大事であると分かってはいたものの、まだ小さいから仕方ないと思う部分もあったので、改めて小さい時からの経験が重要であると実感しました。乳児期から鉄棒にぶら下がったり、引っ張る遊びを取り入れたり、投げる、ハイハイ、おいかけてこやジャンプをする等、普段の遊びの積み重ねが、正しい姿勢や手指の器用さへとつながっていくのだと分かりました。今後の保育にも、手を伸ばしてつかんだり、やわらかいものをつまんだり、全力でおいかけてこを楽しんだりして肩→肘→手首を自然と使って遊べるよう配慮して提供していきたいです。（市外参加者）

○今回、初めて睡眠とホルモンの関係についての話を聞くことができ、なるほどと思いました。自園の環境、遊びへの取り組みが、大和先生が話されることに当てはまるが多かったので、自分自身、引き続き一人ひとり丁寧にかかわって保育していこうと思いました。（市外参加者）